

こんにちは 市民病院です

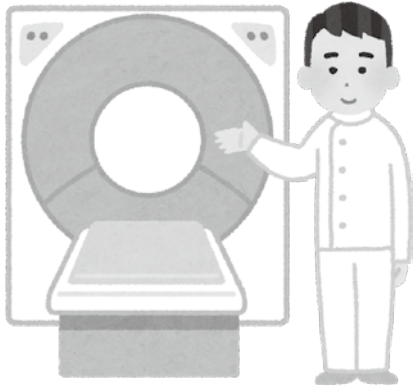
「低線量肺がんCT検査」

飛騨市民病院 放射線科

日本で悪性腫瘍による死亡の第1位は肺がんです。肺がん検診といえば胸部X線検査が一般的ですが、肺の約3分の1が隣接する臓器（心臓、助軟骨化骨部骨など）に隠れてしまうため、早期に肺がんを発見するには限界があります。自覚症状が出た時には癌が進行している事が多くなっています。

一方、胸部CT検査は肺が臓器に隠れる事はなく、比較的早期に肺がんを発見することができ、その発見率は胸部X線検査の10倍程度と高くなっています。しかし、被曝量が50〜100倍ほどあり、精密検査目的のためには必要ですが検診目的の方にはあまり望ましくありません。

そこで検診で肺がんを早期に発見する方法として、近年「低線量肺がんCT検査」が注目され



ています。通常の胸部CT検査よりも病変を見逃さない程度（約1/2〜1/10）までに放射線量を減らした撮影で、被曝の低減を図っています。

「胸部X線検査」で発見される肺がんの大きさは20mm〜30mm以上、5年生存率は20%に対し、「低線量肺がんCT検査」で発見される肺がんの大きさは10mm〜15mm以上、5年生存率は70〜90%に上り、その多くが早期に発見されています。但し通常のCT検査より、低線量にした分精度が下がり、精密検査を必要とする擬陽性の診断が若干増えることも理解していただく必要があります。

※基本的に医療における放射線検査は、健康被害をもたらす程度の被曝線量ではありません。

みんなで活かして 楽しい毎日!

飛騨の薬草を学ぶ 教養講座

サンショウ

サンショウのピリリとした辛さと独特の風味は、今年のような異常な暑さで食欲が落ちた時にはご飯を進めるよい刺激となります。夏のスタミナ食のかば焼きにかけたり、七味唐辛子に入ったりもしています。

サンショウは昔から使用され、日本最古の香辛料の一つで、生命力も強く、畑などでもあちこちから生えてきていることに気づきます。

葉っぱを採ってもすぐにまた生えてくるので、採った葉を乾燥しておくとも年中使用できて便利です。

春先の新芽は焼き物や煮魚に添え、木の芽味噌にします。実は初夏の青い時も、秋に熟してから季節ごとに風味を楽しめます。

サンショウの辛さと共に感じるピリリ成分はサンシオールと言って、まひ（局所麻酔）作用があります。サンショウの葉や実を噛んで、それが舌につくとしばらく痺れて感覚がなくなりますよね。これが胃腸を刺激して機

能を亢進させます。またその辛味成分は大腦を刺激して内臓の働きを活発化させる作用があり、消化不良などに効果があります。

サンショウの根や葉を1日3〜5g煎じて飲むか、粉末を服用すると芳香性健胃整腸剤となり、利尿、駆風、鎮咳、去痰、解毒作用があり、胃痛、下痢、消化不良、腸炎、膀胱炎、腎虚、関節炎、耳鳴り、頭痛、月経不順、冷え性に効果があります。

こんなにも食べておいしく、たくさんの体に良い効果があるサンショウ、畑や庭に植えない手はありませんね。ぜひ活用してください。



（村上光太郎「薬草を食べるより」）